

糸魚川市駅北大火被災者・関係者説明会 議事録

日 時	平成 30 年 8 月 31 日（金）19：00～20：10	場 所	ヒスイ王国館 2 階ホール
件 名	(1) 義援金の第 7 次配分計画について (2) 復興関連工事の実施予定について (3) 復興まちづくり市民会議の設置について (4) にぎわい創出広場等の整備について (5) その他 ○まちなか駐車場の利用について ○復興版マンホール蓋の設置について		
出席者	糸魚川市	米田市長、木村副市長、藤田総務部長、見辺産業部長、山本市民部長、丸山消防長、齊藤復興推進課長、五十嵐建設課長、大嶋商工観光課長、他担当係長	
	被災者関係者	17 世帯 22 人（被災者関係者以外の一般参加者 4 人）	
	報 道	0 社	
会 議 要 旨			
開 会 あいさつ (米田市長)	<p>被災者・関係者説明会の開催にあたり、一言あいさつをさせていただきます。</p> <p>今年は、大変暑い日が続き、皆さまにおかれましても日々の生活にご苦勞があったことと存じます。このような炎天下のなかでも、被災地では着々と住宅や事業所の再建が進んでおり、これからさらに被災地に人やお店が戻って参ります。</p> <p>また、市で実施しております復興関連事業についても今年度は大型防火水槽や復興市営住宅の建設などを進めて参りました。今年度後半にかけては、道路の美化化や防災広場の整備工事にも着手していく予定にしており、復興まちづくり計画における復興整備期として、まちが形づくられようとしています。</p> <p>しかしながら、大火を契機に多くの居住者や事業者がこの土地を離れたという現実もあり、整備が進む、まちのなかに「中身」をつめていくこともあわせて実施していかなければなりません。</p> <p>この場所で住みたい、商売をしてみたいと思えるような魅力のある場所にしていくために、復興まちづくり市民会議やにぎわい創出広場の広場会議などでは、自ら活動してみようという熱意を持った方々からお集まりいただき、意見交換を行っているところであります。</p> <p>少しずつでも、どんなに小さいことでも自分ができることを「まずはやってみる」ということが、長い目を見た持続可能なまちづくりにつながってまいります。</p> <p>すぐに成果は出なくても、何かをしなければ被災前よりも「にぎわいのある、住み続けられるまち」にしていくことはできませんので、皆さまからもご協力・ご参画をいただきながら、引き続き復興まちづくりに精一杯取り組んで参りますことを申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。</p> <p>本日は、よろしく願いいたします。</p>		
議題 (1)	(1) 義援金の第 7 次配分計画について 説明：嶋田福祉事務所次長 【質疑】 (男性 1)		

	<p>支援期間について最大6か月、平成31年6月までとなっていますが、その後はどうなりますか。</p> <p>(嶋田福祉事務所次長)</p> <p>みなし仮設住宅は来年6月に終了します。その後もみなし仮設住宅に住み続けなければならない場合は、それぞれの負担でお願いしたいと考えています。</p> <p>議題(2) (2) 復興関連工事の実施予定について 説明：五十嵐建設課長</p> <p>【質疑】 (男性2)</p> <p>広場がたくさんありますが、できた後の管理の見通しについて、できるだけ具体的にお話をいただけますか。</p> <p>(斉藤復興推進課長)</p> <p>管理の委託をして草刈りや清掃等を行っていただく予定です。</p> <p>議題(3) (3) 復興まちづくり市民会議の設置について</p> <p>議題(4) (4) にぎわい創出広場等の整備について 説明：斉藤復興推進課長</p> <p>【質疑】 (男性3)</p> <p>にぎわい創出広場ですが、関係団体の方で説明は何回か聞いているのですが、そのなかではじめにあった広場のイメージと離れて建物という形になっています。まわりの方からもみんなが望んでこういう建物になっているのかという質問も受けるので、どういった経緯でこういう建物になったのかお聞かせください。</p> <p>(斉藤復興推進課長)</p> <p>昨年度、広場の活用計画のワークショップを行ったなかで、活動するうえで必要な機能として屋根、イベント時に使えるセンターキッチン、トイレ、日常使いに使える広々とした場所という意見をいただいています。今回、屋根の設置について検討をしたなかで、建物という形にするなかで屋内ではありますが広場という形で全天候的に使える建物という形になっています。</p> <p>(男性3)</p> <p>こういう建物を作るということで、今後、民間事業者と話をしながら運営を決めていくという話ですが、おおむねどういう流れでどんな計画になっているのか教えてください。</p> <p>(斉藤復興推進課長)</p> <p>これまでの意見交換をふまえ、まだ設計の方が粗い状況ですので、周辺の方ともお話をさせていただきながら設計の方を固めていきたいと考えています。基本的な計画が固まり次第、詳細設計を進め、発注の準備に入るところまで年度内に完了させていきたいと考えています。新年度になって工事を発注する予定です。</p> <p>(男性3)</p> <p>若者の方と意見交換をしながら進められていますが、最終的にはこういうもの</p>
--	---

ができるということについて地域の近隣の方たちが一番心配している部分もありますので、設計などの説明会というのではなくて懇談会という形で、みんなにぎわい広場なんだよということを植え付けていっていただかないと最終的に大きな空き店舗になりかねないので、しっかりとした雰囲気づくりをお願いします。前に簡単に使える公民館という話も聞いたのですが、まだあいまいなところがありますので、若者や近隣の住民が一体になって盛り上げていけるような雰囲気づくりをお願いします。

(齊藤復興推進課長)

まわりの方とも話をしやすい雰囲気のなかで話をさせていただいて、どういったふうに運営していくんだというところも考えながら進めさせていただきます。

(男性3)

もう一つお願いなのですが、今回の市民会議も団体の代表の方を集めて話をされていますが、会によっては話が伝わってこないということもありますので、代表の人だけでなくみんなに話の内容が伝わってくるようなシステムを作っていたらと。会が悪いんで、みなさんにどうこうというものもあるのですが、市民会議はオープンといってもなかなか行けるものではないので、どんどん情報はオープンにしていっていただければと思います。

(齊藤復興推進課長)

会から選出いただいた方から情報が伝わらないというのはいろんな場面でもあろうかと思います。今回も進めていく中で、会に戻ってほかの皆さんと意見交換をしたうえで市民会議に出てきてくださいというようなお願いもさせていただいているところで、なるべくそうしたことがおこらないよう、会の代表の方を通じてなるべく多くの方の意見をお聞きしたいと考えています。

(男性4)

にぎわい創出広場の資料にイメージ案があります。通常、イメージ案というのは一つでなく複数のものがあって、みなさん討議して決めていくのが普通の格好でないかと思うのですが、最初から市が決めたものがイメージ案で一つだけあるのでは、市民が何のために集まってこういうところで話をするのか、我々が話したものが役に立っていかないということでは、説明会にもならないということになりませんか。

(齊藤復興推進課長)

今回一つだけということであり、今後大きく変わるということはありませんが、皆さんと話をしながらできるだけご希望に添えるようなものにしていきたいと思っています。

(男性4)

そうすると今ある案は、あくまで例であって、これから全く違うものが出てくるということはあるのですか。

(齊藤復興推進課長)

これから全く違うものが出るというのは考えておりません。

	<p>(男性4) この1案だけです。</p> <p>(斉藤復興推進課長) 基本的な形、大きさや規模感は、このような形で考えたいと思っています。</p> <p>(男性4) それと今回、修景としてまちなみをやるという発想で、色や色々なものを規制して我々も家を建てているが、準耐火や決め事を作って守るもの、12メートルの規制を過ぎれば何でもいいということではなくて、みんなで決めたものはそれを守らないといけない。広場の建物は守っていない。規制してみんなで守ろうとしているものは、市も守らなければならぬのではないですか。</p> <p>(斉藤復興推進課長) 景観不燃化ガイドラインの12メートルのエリアについては、屋外広場として本町通りから色々なにぎわいが見えるような形にしたいということでオープンスペースを設けています。下がっているからということではありませんが、基本的にはできるだけガイドラインを守っていきたいと考えています。ただし、間口率については、建物脇をイベント時に使いたいということもあって間口率を確保できるという計画にはなっていないところです。</p> <p>(米田市長) 補足させていただきます。にぎわい創出広場という名前のとおり、ここは広場というところからイメージがあがってきました。そうしたなかで、冬期間の日本海側は11月時分から天候も悪くなってまいりますので、こうした屋根が欲しいという形になっておりますし、周りにはマルシェをやるというようなスペースも必要だというなかでこのような形にさせていただいております。修景については、皆様にお願ひした経過もありますので、なるべく我々もそれにあわせてやっていきたいと思っています。</p> <p>議題(5)</p> <p>(5) その他 ○まちなか駐車場の利用について 説明：斉藤復興推進課長 ○復興版マンホール蓋の設置について 説明：木村ガス水道局長 【質疑】 無し</p> <p>その他</p> <p>【全体を通しての質疑】 (男性2) にぎわい創出広場の図について、こういう形で決まりなのかという質問がありましたが、本来であれば違うものが2つ3つ提示されて検討されてはどうかという趣旨だと思っています。図面を見ますとキッチンスペースとオープンスペース1・2と並んでいます、どうしてこういう配列になっているのかというような説明がないので何故そうなのかというのがよくわかりません。例えば、キッチンスペースを全体の半分くらいの面積にしたら機能はどうなるのか、そういう検討はされているのかどうか、もう少し丁寧な説明が欲しいと思います。</p>
--	---

(齊藤復興推進課長)

オープンスペースとキッチンスペースについての大きさが適正かというお話かと思います。どんな形で利用できるかというところを利用者会議で検討させていただいて、まだ大きさを完全に固めたわけではありません。役割としては、オープンスペース1・2は色々な形につかるようにということを想定してあまり作りこまないという考えです。キッチンスペースは、イベント時のセンターキッチンで考えているのと今後どなたかが例えばカフェとか喫茶とかそういった起業や事業につなげていくためのチャレンジ的なキッチンという役割も持たせてはどうかと考えています。今後、設備とかの大きさもこれから決めていきますし、あとトイレとか備品を入れるための倉庫というような構成になっています。

(男性2)

そうすると、これで決まりだということではないのですね。また、こうした説明会なり、市民が意見を述べる場というのは今後あるのですね。

(齊藤復興推進課長)

利用者会議でいただいた意見をもとに、この辺をこうしたらどうたというので図面を作りまして、また機会を設けて色々と皆様に説明できる場を持ちたいと思っています。

(男性2)

2点目で、にぎわいということについての基本的な考え方についてです。にぎわい創出広場については、大いに盛り上げていきたいと思っていますし、だいぶいろいろな考えも固まって煮詰まってきているなという感じを持っていますので、大いに進めていただければと思うのですが、前にも申し上げたのですが、にぎわいということをどうとらえているのか。にぎわい創出広場は、いろいろなイベントに使うものだと思うんですが、もっと日常的に高齢者がまちなかをにぎわすような状態をどう作りだしていくかという基本的な考え方が少しも出てきません。いろいろイベントをするための場所はいくつも設定されてきますが、日常的な地域住民しかも高齢者がまちなかをにぎわす状態をどう考えていますか。それがないと本当のにぎわいにはならないのではないですか。大町区は高齢化率50%ですので、どうすればまちなかのにぎわいを作り出せるとお考えなのですか。

(米田市長)

にぎわい創出広場で全てにぎわいを作っていけるということではないと思っています。ご承知の通り、にぎわい創出広場は、いろいろ進めてくる中においてスペースができたという形の中において、広場を作るとすることにさせていただきました。にぎわいの拠点というのも考えておりまして、日常的に人が集まってくる環境をつくっていかうことを目指しています。にぎわい広場の方は、広場という形でどのように対応できるのかということで進めてきました。色々とマルシェのようなイベントをするなかで探ってきたわけでございます。そんななかで、資料にあります通り多くの皆様からご意見をいただいて固めてきたもので

ありまして、内容についてはまだまだ絞り込む部分であります。この場所については色々な方々から集まっていたいただいて農業の直売所のようなこともできるスペースもとってございます。にぎわい創出におきましては、ここは本町商店街でありまして、やはり商業が中心になるわけでございますので、人が集まる行政機能のなかにおいて、どんな施設を持ってくればにぎわいにつながるのか、また商売をされている皆様方と共有していける部分があるのか探っているわけでありまして。人が歩かなければ、にぎわいにならないので、郊外型であれば駐車場をつくり、自分のお客さんはそこで困っていくというのができるのですが中心市街地、この本町通りは商業が集まった店舗が魅力を作っていかななくてはいけないと思いますので、連携をとりながら醸成していくことによって、行政もその一翼を担ってもよいのではないかなということで拠点、そして広場についてはイベントをし、そこから派生する生業のヒントを得たりしながらするものになっていくのだらうという一つの考え方でございます。ですから、広場が日常的になっていくのであればいいのですが、商売がそこに根付くということではないのだらうと思います。それは商店街の中で受け持っていたいただければありがたいなと思います。また、空き店舗をお貸しいただけるものはどのように活用していくかということも含めながらなるべく空いた店舗や家を生かしていくことを支援するような形が我々の仕事ととらえているところでございます。

(男性2)

以前の説明会で同じような質問、本町通りに食料品店が1件もないというお話をしたら、副市長さんがそれは儲からないからですという返事でしたが、それはわかっています。本町通りに食料品を扱う少し大きいお店がなければ、高齢者はまち歩きはしません。そういうことをふまえて、どうにぎわい、市民のまち歩き、にぎわいを作り出す構想戦略を立てるかということをお聞きしたいのですが、市長のおっしゃることもわかるのですが、私の思いとはずれている感じがします。

(米田市長)

これは少し時間のかかる話でありますし、ここで結論が出るものではないと思います。簡単にできるのであれば、以前もおまんた市とか、色々やっていたものがあります。それらがなくなったという環境を考えますと色々なところに課題があるんだらうと思います。行政は山間地においても日常生活に店舗がないということも課題としてあわせて捉えていきたいと思っておりますので、高齢化社会において何が生活にとって必要なのか、また、商業ということ考えたときにどういう支援ができるのか、支援のなかでもできれば民間の方が受け持っていたいただくのが一番いいのだらうと思っておりますので、どういった支援がいいのか皆様と協議をしながらつくっていきたくて考えています。

(女性1)

にぎわい創出広場の施設ができたとして、イベントがあるとき以外は、ガラガラの状態でしょうか。何かが出店されているということはないのでしょうか。

(斉藤復興推進課長)

広場全体を通じて、イベントのためだけに作るではありません。資料にあり

まずとおり、利用者からも日常使いということがあり、子どもの遊び場というような意見もあります。さきほどもありましたが、付近の高齢の皆さんが週に何回か気楽に集まれる空間も作っていきたいと思いますが、行政だけでじゃあどうぞという仕掛けでなくて、皆さんのなかでどう使おうかねというなかで、できるだけ皆さんの思いに沿って使っていただけるものにしていきたいと思っていますので、日常的に空いているというふうにならないように今後運営の方も含めて考えていきます。

(女性1)

もう1点、ここの施設の施錠というのはどうなるのでしょうか。

(斉藤復興推進課長)

施錠をどうするのかとか細かいところは今後の話だと思っています。できるだけいつも使えるということが大事だと思いますが、安心安全とか治安という課題もありますので、今後の検討の中で決めていきたいと思っています。

(女性1)

管理人さんはどうなりますか。

(米田市長)

行政がこういう施設を直接は管理できませんので、委託ないしは指定管理みたいなもので人を配置していくことによって、うまく回転していくようならそういう形にもっていけばよいのか、活用の方法、なるべく多目的に色々な方が使える、活発に寄っていただける形にもっていくためには施設だけではなく人もいるのだらうということも考えますと、委託がいいのか指定管理がいいのかというなかで、有人がいいとは思っていますが、情報センターのように人がいるから集まっていたり、ときどき情報交換ができることがあるわけですので、誰かがいてくれて回していくのがよいのではないかと考えています。

(女性1)

イベントをしたいというときでも管理事務所があれば、そこで申請ができるとかというふうにしていただかないと、近所の高齢の方が何かお茶のみとかしたい時に、市役所まで行くのは大変なので、委託などにしていただければと思いますが、委託任せにならないよう重々市で管理していただくようお願いします。

(男性3)

少し前に越後杉のことが話題になりましたが、今回の大火に関して特に影響はなかったと思ってよろしいのでしょうか。

(見辺産業部長)

越後杉は検査方法とかに課題があって県の方から通達も来ています。糸魚川市では、公共工事と言うと29年度まで越後杉を使った物件もございました。それについては、県の方とやりとりしながら大丈夫かどうかといったやりとりもさせていただいていますし、復興市営住宅につきましても検査をしたうえで施工できるものと考えております。

閉会	<p>(女性1)</p> <p>まちなか駐車場は、商店街等利用の方とありますが、駅前に飲みに来た人が駐車して次の日に取りに来るといような駐車はよいのでしょうか。</p> <p>(斉藤復興推進課長)</p> <p>現時点でいいかという長時間になりますねという感じですが、今現在そこまで細かく管理できる状態ではありません。ゲートを設ける予定もありませんので、利用者のモラルのなかで便利なようにお使いいただきたいと思います。</p>
----	---